

平成20年度モデル病院における採用実態調査の結果について

1 内容

後発医薬品を積極的に採用している病院における薬剤費削減効果、汎用されている後発医薬品等の把握を目的とし、調査施設として、後発医薬品を積極的に採用している福岡県ジェネリック医薬品使用促進協議会のモデル病院を対象としたもの

2 調査方法

- モデル病院にて、平成20年4月～9月に購入した医薬品を品目毎に集計
- 内用薬、注射薬、外用薬で区分
- 数量：最小数量（1錠、1カプセル、1筒、1本等）を1単位として集計
- 金額：薬価で集計

3 結果

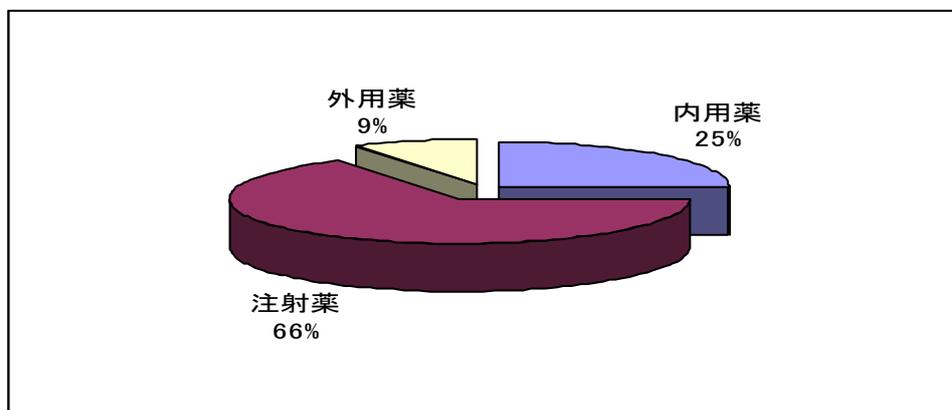
	分類	数量	金額
全体	全体	139,198,540	12,228,490,441
	後発医薬品	36,915,963	862,427,065
	削減額	491,842,679	
内用薬	全体	66,218,663	3,099,536,464
	後発医薬品	7,002,941	95,868,611
	削減額	57,281,210	
注射薬	全体	4,702,984	8,028,263,056
	後発医薬品	838,453	516,031,016
	削減額	394,009,912	
外用薬	全体	68,276,893	1,100,690,920
	後発医薬品	29,074,569	250,527,438
	削減額	40,551,558	

	数量シェア	金額シェア
全体	26.5%	7.1%
内服	10.6%	3.1%
注射	17.8%	6.4%
外用	42.6%	22.8%

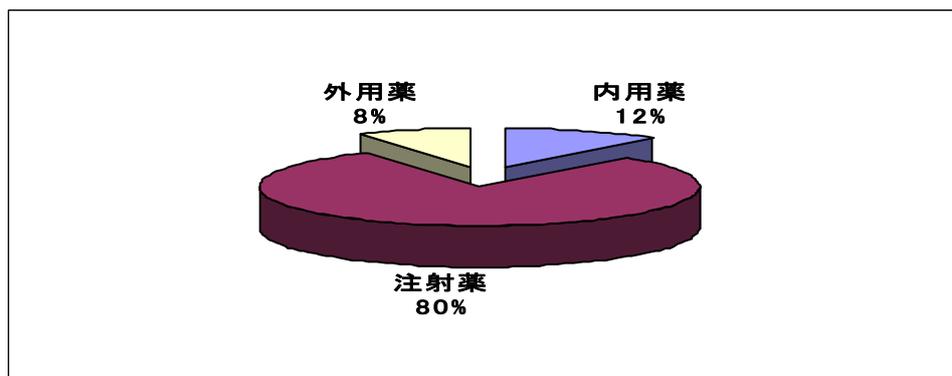
- GEのみしかない（先発品が記載されていない）品目については、削減額計算から除外した。
- GEにしか存在しない規格で、換算できないものは、削減額計算から除外した。
 - （例：アーガメイトゼリーなど）
- GEにしか存在しない規格で、先発品に換算して計測可能なものについては、削減額に加算した。
 - （例：注射薬で、先発品なら5V要するものが、GEなら1Vですむもの。カプセル剤→錠剤）

4 考察

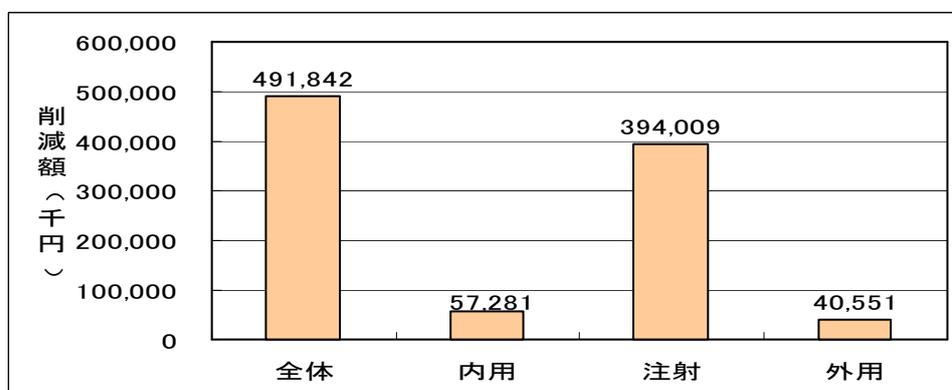
グラフ1 各区分の購入金額の割合について



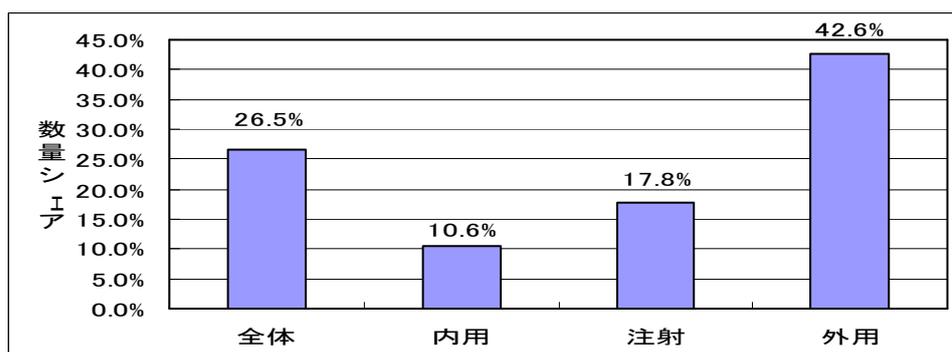
グラフ2 各区分の削減金額の割合について



グラフ3 採用実態調査における削減額について



グラフ4 採用実態調査における数量シェアについて



- 購入金額については、注射剤が6割以上を占める一方で、外用剤が1割弱である。
- 削減額では、注射剤による削減の占める割合が大きい（全体の約8割）。これは、全体の購入金額の中で注射薬がしめる割合が大きいと考えられる。
- 数量シェアをみると外用薬の切り替えが進んでいると思われる。一方で外用薬の削減額は少額である。これは、全体の購入金額の中で外用薬の割合が低いこと、またGEのみしか薬価収載されていない品目が他の分類に較べ多いことが原因と考えられる。